

本音の
コラム



みやこ
宮子 あずさ

四月から中学生の女子
らを対象に定期接種とな
った子宮頸がん予防ワク
チン。その副作用が今、
問題になっている。二〇
〇九年十二月の販売開始
から今年三月末までに重
症例の報告は百六件。そ
のうち六十七件が接種と
因果関係があるという。

私はこのワクチンにつ
いて相談されたら、無理
に接種する必要はないと
答えている。なぜなら、
ワクチンの持続性は不確
定。ウイルス感染以外の
子宮頸がんも三割を占め
ている。

むしろ怖いのは、予防
接種をしたからと言っ
て、検診を受けない人が
増えることだ。二十歳以
上なら隔年で無料検診が

子宮頸がんワクチン

受けられる。この受診率
は米国八割に対して、日
本は二割。先進国で最低
という状況なのだ。

もちろん、受けたくな
い気持ちは私もわかる。
しかし、進行がゆっくり
の子宮頸がんは、検診で
見つけられれば、手術だ
けで完治が可能。これは
やはり、受けないのはも
ったいないと思う。予防
接種より、圧倒的に検診
を重視してほしい。

このように、私は子宮
頸がん予防ワクチンに対
して消極的だが、これ
は、ウイルスの性質にも
よっている。感染経路は
性行為のみで、爆発的流
行はあり得ないからだ。

インフルエンザや風疹
など、伝播しやすいウイ
ルスの予防接種には、防
疫という社会的な意義が
ある。このことも、併せ
て知っておきたい。

(看護師)